

令和 7 年度

フレッシュ研修Ⅱの手引

－医療的ケア（自立活動）担当－

徳島県教育委員会

目 次

I	教職員に求められる資質・能力	1
II	フレッシュ研修Ⅱ（医療的ケア（自立活動）担当）の概要	2
III	全体研修	3
IV	校内研修	5
V	フレッシュ研修Ⅱの進め方	7
VI	とくしま教員育成指標	9

フレッシュ研修Ⅱ 様式集

（徳島県立総合教育センター〔以下、「総合教育センター」という。〕Webサイトからダウンロードできます。）

【様式1】	企業等研修の実施について（送付）	10
【様式2】	企業等研修教育実践報告書	11
【様式3】	欠席届	12
【様式4】	欠席課題報告書	13
【様式5】	欠席課題送付鑑	14

I 教職員に求められる資質・能力

『徳島教育大綱』（令和6年3月策定）では、個性と国際性に富み、大きな夢や高い目標を持って、自らの可能性を高め、主体的に未来を切り拓くために果敢に挑戦する力を育む「徳島ならではの」教育により、本県の宝である「人財」の育成を目指しています。

徳島教育大綱の基本方針

個性と国際性に富み、夢と志あふれる「人財」の育成

徳島教育大綱の行動計画として位置付けられた『徳島県教育振興計画（第4期）』（令和5年度から4年間）では、大綱で明確にされた本県教育の基本方針に基づき、その重点項目を推進するために様々な施策を展開しています。こうした取組が実を結ぶためには、学校教育の直接の担い手である教職員の果たす役割は極めて重要となります。

『とくしま教員育成指標』（令和5年2月改訂）では、教師に共通的に求められる資質・能力を、「素養」、「授業力・学習指導」、「担任力・生徒指導」、「特別な配慮・支援、特別支援の充実」、「ICTの利活用」の5つの柱で再整理しています。



上の図は、「素養」に支えられた「授業力・学習指導」と「担任力・生徒指導」に関わる資質を發揮する際に、「特別な配慮・支援、特別支援の充実」と「ICTの利活用」が大きな影響を与えること、言い換えれば、「特別な配慮・支援、特別支援の充実」と「ICTの利活用」に関わる知識やスキルを向上させることにより、「授業力・学習指導」と「担任力・生徒指導」が児童生徒一人一人により応じたものとなるイメージを表しています。

採用後2年目の教員を対象とする「フレッシュ研修Ⅱ」では、「医療的ケアを教育活動の一環としてとらえ、その専門家としての確かな力量」を高めるために、自らの業務をもう一度見つめ直し、「担任力・生徒指導」をはじめとする実践的指導力の更なる向上に努めてほしいと考えています。

Ⅱ フレッシュ研修Ⅱ（医療的ケア（自立活動）担当）の概要

1 研修の目的

採用後２年目の医療的ケア（自立活動）担当教諭に対して、幅広い知見を得ることを通して、「担任力・生徒指導」をはじめとする実践的指導力の向上を図る。

2 受講対象者及び受講者の決定

原則として、採用後２年目の医療的ケア（自立活動）担当の教諭を対象とする。事情により、当該教諭の研修を次年度等とすることについては、受講予定者、校長の意見を参考に徳島県教育委員会が判断する。国立及び県立学校の場合は、校長から直接徳島県教育委員会に所定の手続きをするものとする。

3 研修の内容等

（１） 内容

① 徳島県教育委員会は、フレッシュ研修Ⅱ研修受講者について、「とくしま教員成指標」を踏まえて体系的にフレッシュ研修Ⅱを実施する。

② とくしま教員育成指標との関わり

フレッシュ研修Ⅱの研修の柱は次のとおりである。

- ・第１回全体研修：○担任力・生徒指導「E 目標の明確化・実態把握力」
- ・第２回全体研修：○素養「B 識見・学び続ける力」
○担任力・生徒指導「A 幼児児童生徒理解・指導力」
「E 目標の明確化・実態把握力」
- ・企業等研修：○特別支援の充実「G センターの機能の推進力」
○素養「B 識見・学び続ける力」
「C 社会性・コミュニケーション力」
○担任力・生徒指導「D 未来ビジョン育成力」
- ・スキルアップ研修：○担任力・生徒指導「C 課題解決力」
「F チームによる組織力」

（２） 実施日数（合計 医療的ケア（自立活動）担当教諭 6.0 日）

【全体研修】

- 全体研修（第１回：各学校 オンライン研修 第２回 総合教育センター） 1.5 日
 - 企業等研修（指定の各企業・施設等） 1.0 日
- ※小・中・高・中等・特・医療的ケア（自立活動）担当教諭

【校内研修】

- スキルアップ研修（所属校での課題解決への取組） 2.5 日
 - ・スキルアップ研修①（所属校にて対面研修） 【1.0 日】
 - ・スキルアップ研修②③④（所属校にてオンライン研修） 【1.5 日】

Ⅲ 全体研修

1 全体研修の概要と日数

3.5 日間の全体研修は、次の（１）～（２）からなる。

（１）全体研修（1.5 日間）

全ての受講者を対象に、次の日程・内容で行う。

① 第１回全体研修の受講（場所：各学校 オンラインによる研修）【0.5 日】

本研修の趣旨や方法を理解し、１年間の研修の見通しを立てる。

・医療的ケア担当部会 …………… 5 月 13 日（火） 15：00～16：45

（研修内容）

○オリエンテーション

○職種別・教科等別研修

② 第２回全体研修の受講（場所：総合教育センター）【1.0 日】

本研修を振り返るとともに、自身のキャリアをデザインし、ジャンプアップ研修（採用後５年目に実施）に向けて３年目以降の取組を設定する。また、フレッシュ研修の閉講式を行う。

・全受講者 …………… 1 月 16 日（金）

（研修内容）

○講義・演習「ポジティブ行動支援で授業づくり」

○講義・演習「企業等研修の活用報告」または「ICTを活用した授業実践報告」

○教職キャリアデザイン

○閉講式

1 月 16 日（金）の第２回全体研修については、改めて研修案内の文書は発送しない。実施要項が、「全国教員研修プラットフォーム：Plant（プラント）」（以下、Plant という。）に掲載されているので、受講者から管理職に実施要項を提示し、承諾を得た上で、出席する。なお、実施要項の内容が変更になる場合があるため、研修の実施日の数日前に、必ず最新の実施要項を確認する。

また、今後決定する企業等研修については、企業等研修係に連絡するため、班員で連絡を取り合い、日程、場所等について、必ず管理職員に報告した上で出席する。

(2) 企業等研修（2日間）

徳島県内の企業等における職業体験を通して、教員とは異なる企業等の仕事についての理解を深め、キャリア教育をはじめとする教育実践に生かせるよう、指導力の向上を図る。

① 班編制

原則としてフレッシュ研修Ⅱの班とする。ただし、特別班を編制することがある。

② 研修の実施に向けて

ア 企業等研修係、打合せ係を決定する。企業等研修係は、企業等研修に関する連絡・調整を行う。打合せ係は、各企業等と研修の詳細について打合せを行う。

イ 班員は、「企業等研修 研修先一覧（第1回全体研修で配付）」の実施日時、研修内容等を参考に、各班で希望研修先を相談するとともに、各所属校の管理職員へ学校行事等の予定を確認する。

ウ 企業等研修係は、「企業等研修 希望票（第1回全体研修で配付）」に研修先の希望を記入して、フレッシュ研修Ⅱ担当までメールで提出する。（提出期限：5月23日（金）まで）

エ 6月中に、フレッシュ研修Ⅱ担当から企業等研修係宛にメールで、【様式1】「企業等研修の実施について（送付）」により、研修先に決定した企業等名について送付する。企業等研修係は、班員の個人アドレス及び班員の学校代表アドレスに、そのメールを転送する。その際、「開封確認メールを要求」と設定する等により、各班員等がメールを受信したことを必ず確認すること。日程や参加者の変更があった場合も同様とする。

オ 7月中に、フレッシュ研修Ⅱ担当から、企業等研修係に企業ごとの実施要項等をメールで送付するので、他の班員の個人アドレス及び班員の学校代表アドレスに転送する。打合せ係は、研修先の企業等研修担当者に連絡して、研修の詳細について打合せを行い、確認したことを班内で共有する。（企業等への連絡期限：実施要項受け取り後1週間以内）

③ 研修の実施

ア 各企業等の研修心得を遵守し、誠意と熱意をもって臨む。

イ 集合時間や研修場所への移動等については、各企業等の研修担当者と打合せをする。

④ 課題内容

所属校の児童生徒に対して、企業等研修で学んだことを生かして教育実践をする。また、実践内容について【様式2】「企業等研修教育実践報告書」にまとめて提出する。

⑤ 様式・提出先等

【様式2】「企業等研修教育実践報告書」にまとめ、フレッシュ研修Ⅱ担当宛（p5参照）にメール（PDF不可）で提出する。また、1月16日（金）の第2回全体研修に他の受講者が閲覧できるデータまたは印刷した資料を持参する。

○メールの件名及びファイル名：「受講番号・企業等研修・学校名・氏名」

（例） 小1・企業等研修・徳島小・徳島太郎

（提出期限：令和8年1月16日（金）までに）

(3) 提出書類 ※各種提出書類の提出期限を厳守する。

提出期限・提出方法	提出書類
令和7年5月23日(金) ※メール	・企業等研修 希望票(第1回全体研修で配付) ※企業等研修係のみが提出
令和8年1月16日(金) ※メール及び当日持参	・【様式2】「企業等研修教育実践報告書」(PDF不可) ※提出するとともに、第2回全体研修に他の受講者が閲覧できるデータまたは印刷した資料を持参

○提出先：徳島県立総合教育センター教職員研修課フレッシュ研修Ⅱ担当

電 話 088-672-5100

メールアドレス fresh_2@mt.tokushima-ec.ed.jp

※メールの件名及びファイル名については、p4で指定したとおりとする。

また、メール作成時に、「開封確認メールを要求」と設定する等により、送信先がメールを受信できたことを確認する。

IV 校内研修

1 スキルアップ研修(2.5日間)

研修日程は次のとおり

月 日	時間	内 容
6月中旬頃	1.0日	スキルアップ研修①(各学校にて対面)
7月29日(火)	0.5日	【オンライン】 スキルアップ研修②
10月17日(金)	0.5日	【オンライン】 スキルアップ研修③
1月23日(金)	0.5日	【オンライン】 スキルアップ研修④

※スキルアップ研修については、案内通知文書及び実施要項を発送する。

2 課題研究

医療的ケア(自立活動)担当教諭が、特別支援学校における医療的ケアについての課題を設定し、指導を受けながら主体的に課題に取り組むものとする。

○ 課題研究報告書の作成について

(1) 章立ての例

(例)

タイトル

ーサブタイトルー

※サブタイトルは必ずしも必要ではない。

1 課題設定

自分の課題や学校の課題を明確にし、「課題の内容」、「設定した理由」等、について記入する。

2 課題解決への取組

設定した自己課題を中心に取組の内容を記入する。

3 指導・助言について

- (1) 専門家からの指導・助言内容について記入する。
- (2) 指導助言を受けての見直し内容についても記入する。

4 取組の経過

指導・助言の期間ごとにどのような取組を行ったのかを記入する。取組の経過をわかりやすくするために写真等を挿入してもよい。

5 取組の結果

幼児児童生徒の変容、自分の変容、学校の変容として、回数、時間、量など客観的な数値で評価できる場合は、必ず数値の変化も記入する。また、取組の過程で、家庭での変容や教職員の変容があれば併せて記入する。

6 まとめと今後の課題

今回の事例研究によって明らかになったこと(結果)をもとに、意見や考えを述べる。

(2) 様式

- ・原稿は、「Word」または「パワーポイント」を使用する。
- ・「Word」を使用する場合はA4判左とじ横書き2枚、文字数は40文字×40行を目安とする。
- ・「パワーポイント」を使用する場合は、スライド16枚、文字の大きさは24ポイント以上を推奨する。

(3) 課題の提出

① 提出方法 電子メール

② 提出期限 令和8年1月23日(金)

提出に当たっては、学校長等の指導を受けること。

③ 提出先

特別支援教育課 tokubetsushienkyouiku@mt.tokushima-ec.ed.jp

V フレッシュ研修Ⅱの進め方

1 研修のスケジュール

月	校内研修	共通研修
	医療的ケア（自立活動）担当教諭：2.5日	医療的ケア（自立活動）担当教諭：3.5日
4	フレッシュ研修Ⅱの案内が届く。	
5	課題の設定（5月～6月） ○自分の課題を明確にする。 （5～6月）【1.0日】 ・スキルアップ研修①：6月中旬	○第1回全体研修 （各学校：オンライン研修） オリエンテーションと班の打合せ 【0.5日】 5月13日（火）
6	課題解決への取組（6月～1月） 校内研修や校外研修の機会を積極的に活用し、設定した自己課題の解決に取り組む。	
7		○企業等研修（各企業等）【2.0日】 7月～8月（夏季休業期間中）
8	○課題解決に取り組むことができているか検証する。（7月～1月） 【②0.5日 ③0.5日】 ・スキルアップ研修②：7月29日（火） ・スキルアップ研修③：10月17日（金） 途中経過を報告し、指導助言を受け、改善を図る。	
9		
10		
11		
12		
1	1年間の研修の成果を分析（1月～2月）	○第2回全体研修（総合教育センター） 教職キャリアデザイン、閉講式 【1.0日】 1月16日（金）
2	○課題解決に向けた取組を報告 【0.5日】 スキルアップ研修④：1月23日（金） 課題研究の成果を報告	
3	○課題研究の成果を校内で報告・活用する。	
備考		※企業等研修の実施日は、フレッシュ研修Ⅱ担当が調整して決定する。

2 欠席（遅刻・早退）をする場合

やむを得ず欠席（遅刻・早退）する場合は、あらかじめ管理職（緊急の場合は本人）が、フレッシュ研修Ⅱ担当（特別支援教育課）に連絡する。特別支援教育課長により欠席が承諾された場合、管理職は、総合教育センターWebサイト又はPlantのフレッシュ研修Ⅱのページより、【様式5】「欠席届」をダウンロードし、作成後速やかにメールに添付して提出する。送付は、学校代表メールアドレスもしくは管理職のメールアドレスから行うようにする。

※企業等研修のみ、総合教育センター教職員研修課のフレッシュ研修Ⅱ担当者に連絡する。

【送付先】特別支援教育課 tokubetsushienkyouiku@mt.tokushima-ec.ed.jp

※企業等研修：総合教育センター教職員研修課 kyoushokuinkenshuu@g.tokushima-ec.ed.jp

※総合教育センター教職員研修課に送付する場合は、学習系パソコン（外部メール）から送付してください。

次の二次元コードからも、それぞれのWebページにジャンプします。



徳島教育大綱・徳島県
教育振興計画（第4期）



「とくしま教員育成指標」



Plant（全国教員研修
プラットフォーム）



フレッシュ研修Ⅱ様式

キャリアステージ		採用時に本県が求める力	＜第1ステージ＞ 基盤形成期	＜第2ステージ＞ 伸長・充実期	＜第3ステージ＞ 熟達期
資質・能力		養成期	基盤形成期	伸長・充実期	深化・発展期
A 使命感・倫理観	B 職 見 学 び 続 け る 力	○ 教育的愛情と熱意をもって教育活動に臨もうとしている。	○ 「とくしま」を愛し、徳島教育大綱に示されている「人材」の育成を目指し、使命感と情熱をもって、たくましく、粘り強く教育活動に取り組んでいる。	○ 使命感と教職への誇り、たくましい精神力と柔軟性をもって、教育活動を推進している。	○ 家庭や地域の信頼に応え、法令やセキュリティポリシー等の遵守を周囲の教職員に働きかけ、組織の志気を高めている。
		○ 社会人としての常識やマナー、道徳性(情報モラルを含む。)を身に付け、法令遵守の精神に基づいた行動をしている。	○ 教育公務員としての自覚をもち、法令やセキュリティポリシー等を遵守するとともに、誠実かつ公正に職務を遂行し、家庭や地域の信頼を得ている。	○ 家庭や地域の信頼に応え、法令やセキュリティポリシー等の遵守を周囲の教職員に働きかけ、組織の志気を高めている。	○ 家庭や地域の信頼に応え、法令やセキュリティポリシー等の遵守を周囲の教職員に働きかけ、組織の志気を高めている。
		○ 学び続ける意欲をもち、他者の意見を謙虚に受け止めている。	○ 知見を広げ、物事を的確に判断するとともに、主体的に研修に取り組んでいる。	○ 豊かな経験に裏打ちされた見識を有し、課題意識と探究心をもって自己研鑽に努めるとともに、範を示している。	○ 豊かな経験に裏打ちされた見識を有し、課題意識と探究心をもって自己研鑽に努めるとともに、範を示している。
		○ コミュニケーションスキルを身に付け、他者と積極的に関わり、助け合っている。	○ 教職員、家庭や地域と幅広く関わり、自分の考えを適切に伝えながら、助け合っている。	○ 組織のコミュニケーションを活性化するとともに、管理職や学年・職種等の異なる教職員とのパイプ役となり、支え合う環境づくりをしている。	○ 組織のコミュニケーションを活性化するとともに、管理職や学年・職種等の異なる教職員とのパイプ役となり、支え合う環境づくりをしている。
C 社 会 性 コミュニケーション力	D 学 校 組 織 マネジメント力	○ 自分を大切にし、人権感覚を身に付け、互いに尊重し合う人間関係を築いている。	○ 幼児児童生徒一人一人の抱えている悩みや願いを把握し、差別やいじめを許さない集団をつくるとともに、教育的愛情をもち、人権を尊重し、行動している。	○ 学校の経営方針を理解し、報告・連絡・相談を適切に行いながら、日々の教育活動に協働して取り組んでいる。	○ グループの強みと弱みを分析したり、PDCAサイクルを活用したりしながら、組織を活性化させている。
		○ 組織の一員として、目標と自分の役割を理解し、協働して責任を果たそうとしている。	○ 校務分掌等の業務内容を理解し計画的に職務遂行に努めている。	○ 校務分掌等の業務を、周囲の教職員と調整しながら遂行している。	○ グループリーダーとして、創意工夫や企画力を発揮し、他のグループとも連携・調整をしながら、組織を活性化させている。
E 連 携 ・ 協 働 力	F 危 機 管 理 力	○ 家庭や地域と連携する重要性を理解し、ボランティア活動や地域の行事等へ参加している。	○ 互いの課題や悩みを解決するため情報交換を積極的に行うとともに、先輩教員に相談したり助言を求めたりしている。	○ 互いの課題や学びの共有を図るとともに、若手教員の範となるよう努めている。	○ 校内研修を充実させるとともに、若手教員に助言をしている。
		○ 安全教育・防災教育・情報モラル教育・食物アレルギー対応等に関する危機管理の重要性を理解し、危険を察知したとき、状況に応じた行動をしている。	○ 安全教育・防災教育・情報モラル教育・食物アレルギー対応等に関する危機管理の知識を身に付け、早期発見や想定外の事態への対応に努め、緊急時に自分の役割を果たしている。	○ 危機管理に対する意識を高め、危険を予測して行動するとともに、安心・安全に配慮した環境づくりをしている。	○ 緊急時のシミュレーションを行い、対応を考え、グループの中心となつて事故等の未然防止に向け行動している。
A カリキュラム・マネジメント力	B 授 業 構 想 力	○ 教育要領・学習指導要領の「目標」「内容」や系統等を理解している。	○ 学校教育目標を踏まえつつ、幼児児童生徒の実態に応じ、作成の意図を考えながら、学校のカリキュラムを活用している。	○ 学校教育目標を踏まえ、幼児児童生徒の系統や新たな教育課題に対応するため、目的や意図を明確にしたカリキュラムを提案している。	○ 学校教育目標を踏まえ、各学年間の系統や幼小・小・中・高の接続を見通して、学校の特色を生かした創意工夫のあるカリキュラムを作成している。
		○ 幼児児童生徒の障がいや発達段階に適した授業イメージをもつ。個や場面に応じた教材やICT等の効果的な活用場面等を考えながら、学習指導案を作成している。	○ アセスメントや客観的な視座に基づいた幼児児童生徒の個別の指導計画や年間指導計画に沿って、ICT等の効果的な活用や評価方法を取り入れた日々の保育・授業(以下、授業と表記。)を構想している。	○ 幼児児童生徒一人一人に応じ、育成を目指す資質・能力の定着を図るために、指導と評価の一体化を図り、教材等の開発やICT等の効果的な活用に取り組み、創意工夫のある授業を構想している。	○ これまでの実践や経験を基に、単元・題材の開発や授業構想に関する専門性を高め、教材やICT等の効果的な活用方法と学習評価の研究に努め、改善につなげる助言をしている。
		○ 基本的な指導技術を身に付け、幼児児童生徒の学習の様子を把握しながら授業を実践しようとしている。	○ 各授業において目標設定や指導内容・方法を考え、個々の幼児児童生徒の実態に即した教材・教具の活用による適切な指導・支援をしている。	○ 学びの質や長期的な変容にも目を向け、幼児児童生徒一人一人の習得状況を把握するとともに、新しい指導技術・指導方法を積極的に取り入れ、適切に補充的・発展的な指導・支援をしている。	○ 幅広い情報を基に自分の指導技術、指導方法、評価方法を更新しつつ、新しい技術や方法を取り入れた範を積極的に示したり、学校全体の授業力向上を働きかけたりしている。
		○ 授業を分析して改善する手立てを理解し、実践しようとしている。	○ 授業の目標に沿った具体的な学習成果の記録や自己評価を行い、授業改善を行っている。	○ 担任と幼児児童生徒に関わる教員間で指導の効果を確認しながら授業改善を行うとともに、幼児児童生徒の得意な面を認めることにより、学習意欲の向上につなげる支援を行っている。	○ 様々な障がいのある幼児児童生徒の授業について、学校全体の授業改善に取り組む環境づくりに努め、教員の個性を生かす助言をしている。
A 幼 児 児 童 生 徒 理 解 ・ 指 導 力	B 集 団 づ くり 力	○ 幼児児童生徒理解の意義や心身の発達過程・特徴について理解している。	○ 幼児児童生徒に向き合い、一人一人の人格を尊重し、共感的理解に努めて信頼関係を構築するとともに、社会的資質や行動力を高めるよう指導・支援をしている。	○ 幼児児童生徒の発達や個性等をより多面的に理解して信頼関係を構築し、長期的な視野をもって社会的資質や行動力を獲得できるように意図的・計画的に指導・支援するとともに、若手教員に助言をしている。	○ 幼児児童生徒を深く理解し、細やかな配慮をするために、全ての教職員で幼児児童生徒の理解や指導・支援の方針について共通理解を図る環境づくりをしている。
		○ 特別支援教育の理念、動向、関連する基礎的な用語を理解している。	○ 担任の職務内容や集団づくりの意義を理解し、学級経営の基本的な指導方法を身に付けている。	○ 内容により学級、学年、学部で行うもの、他の学部と合同で行うもの等の異同構成を行い、幼児児童生徒同士のコミュニケーションを活性化し、自発的なコミュニケーションが生まれるような集団づくりに積極的に取り組むとともに、若手教員に助言をしている。	○ 学校全体の集団づくりの取組を視野に入れ、活性化させるための具体的方法を提案している。
		○ 学校生活の中で生じる様々な課題の発見と対応の方法について理解し、積極的・課題解決に取り組もうとしている。	○ 他の教職員や専門家のアドバイスを受けながら、特別支援教育の最新の知見に基づいた指導方法や指導技術を身に付けている。	○ 幼児児童生徒の望ましい行動を育てるために、ポジティブ行動支援の手法を用いて、課題の解決や問題の予防に取り組んでいる。	○ 学校が直面する様々な課題を把握し、その解決のために、個別的な支援や、ポジティブ行動支援の実践等、組織的できめ細やかな指導・支援を学校全体で取り組むように推進している。
		○ 将来の社会参加と自立の視点に基づき、キャリア教育・消費者教育・主権者教育の重要性を理解し、基本的な指導方法を身に付けている。	○ 個別の教育支援計画や個別の指導計画にキャリア教育・消費者教育・主権者教育の視点からの目標を設定し、一人一人の社会的・職業的自立の目標達成に向け、日々の指導・支援をしている。	○ 発達段階に応じて、グローバルな視野とキャリア教育・消費者教育・主権者教育の視点を踏まえ、学校種をこえた連携や、家庭・地域、就労支援機関、企業、福祉施設、関係機関等との連携を図りながら、卒業後の社会的・職業的自立やQOLの向上を目指してあらゆる教育活動に取り組んでいる。	○ 学校の教育活動全体を通じて、グローバルな視野とキャリア教育・消費者教育・主権者教育の視点を踏まえた指導や、卒業後の生活を見据えた指導・支援について、学校全体における取組を推進している。
E 目 標 の 明 確 化 ・ 実 態 把 握 力	F テ ー ム に よ る 組 織 力	○ 幼児児童生徒の実態把握の必要性を認識し、指導目標を明確にしようとしている。	○ 個々に応じたアセスメントにより、幼児児童生徒一人一人の障がいの特性を知り、特に配慮を必要とする様々な状態を理解している。	○ 各発達心理検査、一般職業適性検査結果の活用や、課題分析等の客観的な視座に基づいた実態把握に取り組む、指導目標を明確にしている。	○ 障がい特性理解を深めるための効果的な研修の方策を理解し、教職員に研修を促したり、助言をしたりしている。
		○ 学校生活の中で生じる様々な課題の発見と対応の方法について理解し、チームで協力して解決する必要性を理解している。	○ 医療的ケアを必要とする幼児児童生徒が安心・安全な学校生活を送るために、養護教諭や学校看護師と連携し、給食における指導や医療的ケア等に取り組んでいる。	○ 外部専門家のコンサルテーションを受けるなどして、問題行動をばいめとする個別の課題への対応や解決について、チームで積極的に取り組んでいる。	○ 学校が直面する様々な課題を把握し、その解決のために、組織的できめ細やかな指導・支援を関係機関や学校全体で一つのチームとして、取り組むように推進している。
G センターの機能の 推 進 力	H 地 域 貢 献 力	○ 特別支援学校のセンター的機能の役割を理解している。	○ 自校におけるセンター的機能について、校内組織や活動内容を理解し、先駆教員とともに、地域の学校への理解・啓発に取り組んでいる。	○ 地域の教育資源についての情報を把握し、「早期からのキャリア教育」「エンシカル消費教育」「教職連携」「SDGs」等の取組において活用を図っている。	○ 近隣の地域や企業等と連携を進め、地域と一体化した「キャリア教育」に取り組んでいる。
		○ 特別支援学校が取り組んでいる、家庭や地域、企業等と連携・協働した実践について知っている。	○ 家庭や地域との連携・協働の意義を踏まえ、家庭や地域と積極的に関わり、協働活動に取り組んでいる。	○ 最新の知見に基づき、ICTを効果的に活用した授業を実施するとともに、学びの質や長期的な変容に関する教育データを分析し、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実のための補充的・発展的な指導・支援をしたり、幼児児童生徒の成長や発達に応じて、きめ細やかに機器の調整を行ったりしている。	○ 多様性を認め合う「ダイバーシティ」とくしまの実現を目指した地域と一体化した取組を推進している。
A ICTを学習指導に 利 用 す る 力	B ICTを効率的な 活 用 す る 力	○ 幼児児童生徒の活動の姿や思考の流れを踏まえ、ICTの活用場面等を想定しながら、学習指導案を作成している。	○ 幼児児童生徒の実態に応じ、育成を目指す資質・能力の定着に向け、目標と評価を関係付けて、ICTを積極的に取り入れた授業を構想している。	○ 幼児児童生徒一人一人に応じ、育成を目指す資質・能力の定着を図るために、学習内容に応じて、ICTを適切かつ効果的に活用した創意工夫のある授業を他の教職員と協働して実践するとともに、様々な支援機器についての知識を高めている。	○ 単元・題材の開発や授業構想に関する専門性に加え、ICTの適切かつ効果的な実践・研究を生かした授業改善についての助言をしている。
		○ 学習指導に必要なアプリケーションや情報モラル・セキュリティに関する知識や技能を身に付けている。	○ 育成を目指す資質・能力の定着に向け、積極的・ICTを活用した指導を実践し、一人一人の障がい特性・困難さ、支援のニーズに応じた活用を行うとともに、蓄積した教育データを学習評価につなげている。	○ 最新の知見に基づき、ICTを効果的に活用した授業を実施するとともに、学びの質や長期的な変容に関する教育データを分析し、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実のための補充的・発展的な指導・支援をしたり、幼児児童生徒の成長や発達に応じて、きめ細やかに機器の調整を行ったりしている。	○ 個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実に向け、必要とされる教育データの活用とICTスキルの向上についての研究に努めるとともに、一人一人に応じた利活用について助言をしている。
A ICTを効率的な 活 用 す る 力	B ICTを効率的な 活 用 す る 力	○ 学校業務に必要なアプリケーション操作や情報モラル・セキュリティに関する知識や技能を身に付けている。	○ 所属する組織のセキュリティポリシーを理解し、学級事務、校務において、学校業務支援システムやその他のクラウドサービスを利活用している。	○ セキュリティポリシーを遵守し、学校業務支援システムやその他のクラウドサービスの多くの機能を活用して効率的に業務を遂行している。	○ セキュリティポリシーを遵守し、学校業務支援システムやその他のクラウドサービスの効率的な利活用について教職員に提案している。

企業等研修の実施について（送付）

月・日	令和 年 月 日（ ）						
送り先	班番号（ ） （ ）学校 企業等研修係（ ）様						
送信者	徳島県立総合教育センター教職員研修課フレッシュ研修Ⅱ担当 メールアドレス：fresh_2@mt.tokushima-ec.ed.jp						
内 容	次のとおり決定しましたので、「企業等研修 班別名簿（第1回全体研修で配付）」を基に、学校長、班員及び関係者に連絡してください。研修については、「フレッシュ研修Ⅱの手引ー医療的ケア（自立活動）担当ーⅢ1（2）企業等研修（p4）」を再度確認してください。 なお、各企業等における実施要項は、<u>7月中に企業等研修係に送付</u>します。企業等研修係は、実施要項が届いたら、班員に転送してください。打合せ係は、<u>1週間以内に各企業等と連絡を取り</u>、確認した内容を班員に伝えてください。 <table border="1" data-bbox="435 1084 1331 1429"> <tr> <td>企業・施設名</td><td></td></tr> <tr> <td>研 修 日</td><td></td></tr> <tr> <td>所 在 地</td><td></td></tr> </table>	企業・施設名		研 修 日		所 在 地	
企業・施設名							
研 修 日							
所 在 地							
備 考							

※企業等研修係は、本通知データを班員の個人アドレス及び班員の学校代表アドレスに速やかにメールで転送してください。

企業等研修教育実践報告書

研 修 日	令和 年 月 日 ・ 月 日		
研修企業名			
受 講 番 号			
学 校 名		氏 名	
課題：所属校に対して、企業等研修で学んだことを生かして、どのような実践をしましたか。具体的に書いてください。			
1 いつ（〇月ごろ 等） 2 どのような形で（医療的ケアの業務、学校生活等）実践をしたか 3 日常の業務の中でどのような実践をしたか 4 取り組んだ際の周囲の反応（養護教諭、看護師、担任、児童生徒等）はどうだったか 5 今後の業務にどのように生かしていくか			

※研修実施企業等に送付することがあるため、児童生徒の個人情報につながるような表現は避けてください。

※1月16日(金)までにフレッシュ研修Ⅱ担当宛（p.5 参照）にメール（PDF 不可）で提出してください。また、第2回全体研修に他の受講者が閲覧できるデータまたは印刷した資料を持参してください。

		令和		年		月		日	
徳島県教育委員会特別支援教育課長 殿									
		学 校 名							
		校長氏名							
欠 席 届									
次のとおり、本校職員が令和7年度フレッシュ研修Ⅱを欠席しますので、お届けします。									
1 職 氏 名									
2 研修講座名									
3 欠席する期間		令和		年		月		日	
		令和		年		月		日	
								曜日から 曜日まで () 日間	
4 欠席の理由									

※企業等研修のみ、総合教育センター教職員研修課のフレッシュ研修Ⅱ担当者に連絡してください。

※総合教育センター教職員研修課に送付する場合は、学習系パソコン（外部メール）から送付してください。

– 12 –

【様式4】フレッシュ研修Ⅱ

() の欠席課題報告書

研修日	令和 年 月 日 ()	受講番号	
学校名		氏 名	
(課題)			

【様式5】フレッシュ研修Ⅱ

令和 年 月 日
第 号

徳島県教育委員会特別支援教育課長 殿

学校長

フレッシュ研修Ⅱ（ ）の欠席課題について(送付)

このことについて、別添のとおりお送りします。